

令和2年度（2020年度）

金沢大学大学院法務研究科

入学試験問題

刑 法

A日程入試

（注意）

1. 問題冊子（表紙を含む）は2枚です。
2. 問題冊子は指示があるまで開かないで下さい。
3. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰って下さい。
4. 解答は、鉛筆、シャープペンシル、ペン、ボールペンのいずれで記入しても構いません。
5. 解答にあたっては、どの問題から解答しても構いません。ただし、どの問題についての解答であるのかを答案中に明示してください。

## 令和2年度（2020年度）金沢大学大学院法務研究科入学試験問題

試験科目	刑	法
------	---	---

以下の問題について解答しなさい。

### 問題1（5点×2）

以下の語句あるいは概念を説明しなさい。解答の際は、定義だけを記述するのではなく、学説の議論状況や判例の状況など解答すべき内容を問題に応じて自ら選択し、具体的な事例を自ら設定したうえでそれぞれ解答用紙5行程度で解答すること。

（1）人の始期

（2）罪を犯した者が自己を隠避するよう依頼する行為の可罰性

### 問題2（15点）

次の事例におけるXおよびYの罪責を論じなさい。ただし、特別法違反の点は論じる必要はない。

賭博の常習者であるXは、普段から通っているバカラ賭博場Aで「友達紹介キャンペーン」が開催されていることを知り、賭博などしたことのない友人Yを誘って賭博をすることとした。XはYに「たまには遊びに行くのもいいんじゃない？賭博って面白いよ」と誘ったものの、Yは2歳の息子Bを育てるシングルマザーであったことから、「子供の面倒を見ないといけない」と難色を示した。しかしXは「2歳だったらひとりで大丈夫だって。夕方までには帰ってくるんだし。キャンペーンは明日までなんだ」と食い下がったため、Yは「それなら大丈夫か」と思い承諾した。

翌日、YはBの食事を用意したうえでBをひとり残し午前10時に家を出、Xと合流して午後5時までAにてバカラ賭博に興じた。その間午後3時頃、Bは自宅居間の椅子に登った後誤って頭から転落してしまった。Yが帰宅した時には、Bは頭蓋骨骨折に伴う出血によりすでに死亡していた。XもYもこのような事故が起こるとは全く想定していなかった。